

令和5年度第1回循環器病対策推進協議会 議事要旨

1 日 時：令和5年11月15日 18:00～19:30

2 場 所：富山県民会館701号室

3 出席者：委員19名（2名欠席）

4 協議内容

【議事1 会長・副会長の選任について】

会長 村上委員（富山県医師会長）、副会長 川端委員（富山県公的病院長協議会長）を選任

【議事2 富山県循環器病対策推進計画及び第8次富山県医療計画（脳卒中・心筋梗塞等の心血管疾患の医療体制）の策定について】

（主な意見）

○医療体制・人材確保について

- ・脳卒中や急性心筋梗塞など急性期医療を担う医療人材の確保が難しくなっており、安定して人材を確保していくには、若手の教育をきちんとやっていくことが重要になってくる。
- ・摂食嚥下に大きく関わっているST（言語聴覚士）について、富山県内に養成学校がないために困っている。計画に何らかの形で入れていただければと思う。
- ・資料では、富山県のリハビリテーション科の医師数が全国平均程度となっているが、そういった実感はない。ぜひ、行政や大学で、学生にリハビリテーション科の魅力をアピールしていただければありがたい。
- ・小児循環器医療は、富山県のみではなく、県の範囲を超えた領域で拠点化が必要になってくると思われる。
- ・リハビリテーション職種の専門性をご理解いただき、単に職員の数ではなく、心臓リハビリテーション指導士といった数を指標としてはどうか。
- ・回復期病床不足への対応として、勤務するリハビリテーション従事者を増やすのではなく、各病院に回復期病床を増やすための働きかけが必要。
- ・心疾患の研修会が少ないので、多職種の方々の協力により研修会を開催いただきたい。

○生活習慣の改善について

- ・富山県は脳血管疾患、心臓疾患の大きな要因となる食塩摂取が非常に多い。検診で塩分摂取量を健診で測定できない、医師会では健診分野へ働きかけている。
- ・富山県は共働きということもあり、減塩や野菜摂取について、家庭の取り組みだけでは難しい。スーパー、外食産業などと連携していかなければならないと痛感している。
- ・若い方の外食や食事形態が変わってきており、企業や学校との連携が重要だと感じている。

- ・これから一人暮らしの高齢者が増えるので、緊急時の対策を考えていかななくては
いけない。また、高齢者の食生活はフレイル予防として、減塩よりも食べてもら
うことも必要。

○検診・治療等について

- ・心不全の増加が問題になっていることから、検診項目にBNP/NT-proBNPを
入れてもらいたい。
- ・禁煙については、チャンピックスの供給がうまくいっておらず、禁煙指導に今後
影響するのではないかと懸念している。
- ・最近はアプリを使った服薬管理指導が主流になってきている。医療機関と連携し
ながら患者さんの服薬管理を進めることができればと思う。
- ・リハビリ専門職がリハビリテーションを適切に提供したかはADLの改善率でみ
るのが一番だと思うので、指標に盛り込んでいただきたい。

○就労支援について

- ・労働局では、長期治療を受けながら就職希望される方に対し、ハローワーク職員に
よる病院への出張相談など支援を実施している。県内では県立中央病院、富山市民
病院、富山大学附属病院、砺波総合病院の4か所と現在協定を結んでいる。
- ・現在、脳卒中と心臓病に関する多職種連合の結成を進めており、その一環として、
脳卒中発症後に自宅で生活している方がどれだけ復職ができているのかというデ
ータを今全国で2年ぐらいかけて集めている。

○患者支援等について

- ・患者会には術後の高校生から、心内膜炎やBNPの値が高くなったという相談や
妊娠や出産に対する不安の声、肝臓やがんなどの他の病気を併発したという声も
寄せられている。
- ・最近は大脳機能障害や発達障害といった悩みも聞いており、県内の医療体制の
充実のため、専門医や心理士、チャイルドライフスペシャリストなどを増やしてい
ただきたい。
- ・生活習慣病の予防については、患者としては1回2回話を聞いてもなかなか継続で
きないので、いろんな知識をふやす機会がもっとあればいいと思う。
- ・患者が日常生活していく上で、ケアマネジャーを頼りにしている。ケアマネジ
ャーに通院しているか、食事はどうかといったことなどケアの確認をしていただ
けるとありがたい。
- ・患者の療養支援の充実に向け、外来の看護師が必要である。かかりつけ看護師とい
う言葉も使われており、計画の中に入れていただきたい。